

A区分・C区分共通  
No.1(実演芸術・メディア芸術)

令和7年度舞台芸術等総合支援事業(学校巡回公演)出演希望調書(実演芸術・メディア芸術 共通)

別添	なし
----	----

分野、種目(該当する分野、種目を選択してください。)

分野	伝統芸能	種目	邦楽
----	------	----	----

応募区分(応募する区分を選択してください。)

応募区分	A区分
------	-----

複数応募の状況(該当するものを選択してください。) ※B区分継続団体については、応募企画数から除く

複数応募の有無	無	応募総企画数	
---------	---	--------	--

複数の企画が採択された場合の実施体制(該当するものを選択してください。)

※複数応募の有無で【無】を選択された場合は、未記入で構いません。(グレーアウトされます。)

複数の企画が採択された場合の実施体制	
--------------------	--

文化芸術団体の概要

ふりがな 制作団体名	いっばんしゃだんほうじんながうたきょうかい		団体ウェブサイトURL
	一般社団法人長唄協会		https://www.nagauta.or.jp/
代表者職・氏名	会長 芳村伊十郎(代表理事 小田隆弘)		
制作団体所在地	〒 160-0023	最寄り駅(バス停)	西新宿
	東京都新宿区西新宿6-12-30芸能花伝舎A棟2F		
電話番号	03-6279-4749		
ふりがな 公演団体名	いっばんしゃだんほうじんながうたきょうかい		団体ウェブサイトURL
	一般社団法人長唄協会		https://www.nagauta.or.jp/
代表者職・氏名	会長 芳村伊十郎(代表理事 小田隆弘)		
公演団体所在地	〒 160-0023	最寄り駅(バス停)	西新宿
	東京都新宿区西新宿6-12-30芸能花伝舎A棟2F		
制作団体 設立年月	大正14年(1925年)7月		
制作団体組織	役職員		団体構成員及び加入条件等
	会長 芳村伊十郎(代表理事 小田隆弘) 副会長 今藤長十郎(理事 坂田早苗)、副会長 杵屋佐吉(理事 武藤吉彦)、副会長 藤舎呂船(理事 橋利明)、常任理事 杵家弥七(理事 赤星輝幸)、常任理事 吉住小三郎(理事 吉住彰規)、常任理事 日吉小三八(理事 石村和人)、常任理事 和歌山富朗(理事 谷口之彦)、常任理事 東音西垣和彦理事他11名、監事 芳村伊四郎(監事 太田孝彦)他監事2名		当法人は、理事会23名(代表理事1名を含む)を含む協会員1,850名(2024年6月18日現在)にて構成。会員は、各流派の芸名を持つ事を原則とし、各流会派の推薦する演奏家の本会への入会は、定款第6条の会員の資格の取得に基づく。

事務体制 事務(制作)専任担当の有無	事務(制作)専任の担当者 を置く	本事業担当者名	鈴木遊輔
経理処理等の 監査担当の有無	有	経理担当者	吉原 悦子
本応募にかかる連絡先 (メールアドレス)	office@nagauta.or.jp、nagauta.fukyuiukusei@gmail.com yusuzuki@green.ocn.ne.jp		

制作団体沿革・ 主な受賞歴	長唄協会 大正14年(1925年)東京府知事の勧告により設立 昭和52年(1977年)社団法人認可 平成24年(2012年)一般社団法人認可		
学校等における 公演実績	<p>長唄協会では、社団法人認可以前より、青少年の健全育成の一環として、小学生にも伝統文化に勤しむ時間を設ける為、昭和43年(1968年)12月より学校巡回公演を主催から後援等で実施。その後中学校、大学も含め、現在、東京都、神奈川県で年間約10校程度実施。また、従来より、学校教員(音楽の先生)向けの長唄実技研修会を全国規模で展開しており、DVD付きのテキスト等を利用しながら、長唄を通して、三味線、囃子楽器等に直に触れ、日本の伝統楽器の特徴を理解しつつ、先生から生徒への円滑な指導に役立っている。その他、伝統文化芸能体験事業として、東京都他の要請を受け、学校や指定会場にて、体験事業を実施している。令和5年度より舞台芸術等総合支援事業による学校巡回公演を行っている。</p> <p>以下、学校巡回事業実施学校名(令和1年～令和6年のみ)</p> <p>○令和1年 フェリス女学院大学 文京区立礪川小学校 武蔵野市立第四中学校 中央区立日本橋小学校 文京区立昭和小学校 文京区立誠之小学校 文京区立本郷小学校 国立市小学校邦楽教室 後援 文京区立第一中学校 文京区立第一中学校 武蔵野市立第六中学校</p> <p>○令和2年 フェリス女学院大学 文京区立昭和小学校 国立市小学校邦楽教室 文京区立礪川小学校 文京区立本郷小学校 中央区立日本橋小学校</p> <p>○令和3年 文京区立誠之小学校 中央区立日本橋小学校 文京区立礪川小学校 文京区立本郷小学校 文京区立昭和小学校 国立市邦楽鑑賞教室</p> <p>○令和4年 文京区立誠之小学校 中央区立日本橋小学校 文京区立礪川小学校 文京区立本郷小学校 文京区立昭和小学校 国立市邦楽鑑賞教室</p> <p>○令和5年 中央区立日本橋小学校 文京区立礪川小学校 文京区立誠之小学校(10月実施)文京区立本郷小学校(12月実施) 文京区立昭和小学校(12月実施) 国立市邦楽鑑賞教室(12月実施)</p> <p>【以下は学校巡回公演での実施校】 三郷市立瑞木小学校(埼玉県)、さいたま市立与野南小学校(埼玉県)、東松山市立大曲小学校(宮城県)、東松島市立鳴瀬未来中学校(宮城県)、花巻市立八重畑小学校(岩手県)、階上町立階上小学校(青森県)、北秋田市立鷹巣東小学校(秋田県)</p>		
特別支援学校等における公演実績	文京区立第一中学校(特別養護学級)ほか		
参考資料の有無	申請する演目のWEB公開資料	有	
	※公開資料有の場合URL	<a href="https://youtu.be/jwPYBr5oEmc">https://youtu.be/jwPYBr5oEmc</a>	
	※閲覧に権限が必要な場合のIDおよびパスワード	ID:	
		PW:	

別添	なし
----	----

## 公演・ワークショップの内容

【公演団体名 一般社団法人長唄協会】

対象	小学生(低学年)	○	小学生(中学年)	○
	小学生(高学年)	○	中学生	○
企画名	はじめての長唄「京鹿子娘道成寺」「勸進帳」			
企画のねらい	<p>大半の児童・生徒たちが長唄にはじめて触れることを想定し、楽しく分かりやすい演目を選びました。前半の長唄「京鹿子娘道成寺」はワークショップでお稽古、発表した内容を膨らませ、本公演ではプロの多人数編成の演奏を聴くことができます。また、お揃いの肩衣をつけた児童・生徒がプロと並んで演奏に参加する機会を設け、視覚からも児童・生徒からの興味を引き出します。</p> <p>曲中に全員参加の部分を設けることで、より一層の一体感が生まれ、充実した体験となるのがねらいです。後半は邦楽の様々な楽器をスライドや実演を通して説明します。最後は長唄「勸進帳」を聴いてもらいます。音楽の教科書にも載っている勸進帳を選択したのは子供たちが邦楽に触れただけでなく、今後音楽の授業で勸進帳を勉強する際に、鮮明に思い出すことができると思います。生の演奏を聴き、それが教科書と結びつくことでより深く記憶に留め、今後邦楽に興味を持つきっかけになって欲しいと考えました。</p>			
演目概要・演目選択理由	<p>【第一部】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. はじまりのお話</li> <li>2. ごあいさつ、おさらい</li> <li>3. 長唄「京鹿子娘道成寺」(ワークショップ練習曲)説明</li> <li>4. 「京鹿子娘道成寺」おさらい</li> <li>5. みんなで共演！参加型 長唄「京鹿子娘道成寺」 ワークショップでお稽古した長唄「京鹿子娘道成寺」を肩衣を着用してプロと再共演。長唄をより深く体感します。</li> </ol> <p>【休憩・楽器展示コーナー】</p> <p>【第二部】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 楽器紹介</li> <li>2. 鑑賞 長唄「勸進帳」</li> <li>3. アフタートーク</li> <li>4. 校歌斉唱(和楽器による伴奏)</li> </ol> <p>≪長唄「京鹿子娘道成寺(きょうがのこむすめどうじょうじ)」≫ 場面ごとの変化に富んだ大曲ですが、その中でも親しみやすく、弾きやすい箇所を抜粋しています。ワークショップのみではなく、本公演でも形を変えて同曲に触れることで、より深く身体に浸透させることができます。長唄は「全く知らない難しい曲」ではなく、プロを交え、皆で演奏をし、楽しい身近な音楽であると感じてもらうことがねらいです。また、第一部では演奏者、第二部では鑑賞者となることで、広い視点で舞台を鑑賞する能力を培います。</p> <p>≪長唄「勸進帳(かんじんちょう)」≫ プロの高度な演奏技術を堪能することができる、大変ドラマチックな曲です。プロ演奏家総勢13名の華やかで力強い演奏をじっくり鑑賞します。大半の児童・生徒たちが長唄にはじめて触れることを想定し、楽しく分かりやすい演目を選びました。「勸進帳」は中学校音楽の教科書にも掲載され、授業に採用している学校も多いため、実際の生演奏にふれることは貴重な経験となります。今回は「いいとこ取り」と称して、15分間のハイライトを演奏します。「次第」「寄せの合方」など聴きどころは満載ですが、とくに「滝流しの合方」という器楽だけで演奏されるクライマックスは、そのスピード感と一糸乱れぬ演奏に圧倒されることでしょう。</p>			
児童・生徒の参加又は体験の形態	<p>【対象参加者】 ㊦全校児童・生徒 ㊧ワークショップ参加者の中から選ばれた児童・生徒</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① みんなで唄おう ～謡ガカリ～ ㊦ 長唄「京鹿子娘道成寺」より、冒頭部分の「花の外には松ばかり～」を大合唱し、曲のはじまりを全員で壮大に彩ります。</li> <li>② みんなで手拍子 ～お囃子のリズム～ ㊦ 長唄「京鹿子娘道成寺」より、お囃子のリズムに手拍子で参加し、プロの演奏に合わせてリズムカルに手を叩きます。</li> <li>③ 共演 長唄「京鹿子娘道成寺」 ㊧ 選ばれた児童・生徒は、肩衣を着けプロと並んで演奏します。 (ワークショップ時にお稽古したパートから数名ずつ選抜)</li> <li>④ 鑑賞 長唄「勸進帳」 ㊦</li> <li>⑤ 和楽器伴奏による校歌斉唱 ㊦</li> </ol>			
児童・生徒の参加可能人数	本公演	参加・体験人数目安	500名程度(体育館に入る人数)	
		鑑賞人数目安	500名程度(体育館に入る人数)	

<p><b>本公演演目</b> <b>原作/作曲</b> <b>脚本</b> <b>演出/振付</b></p>	<p>◎はじめての長唄「京鹿子娘道成寺」「勸進帳」</p> <p>～第一部 みんなで共演！参加型 長唄「京鹿子娘道成寺」プロと一緒に全員で演奏しよう～      演目 長唄「京鹿子娘道成寺」作曲：初世杵屋弥三郎      より一部抜粋編曲(長唄協会)</p> <p>～第二部 じっくり鑑賞 長唄「勸進帳」プロの熱演を心ゆくまで堪能してください～      演目 長唄「勸進帳」作曲：四世杵屋六三郎 作詞：三世並木五瓶      より一部抜粋編曲(長唄協会)</p> <p>プログラム構成、演出、一般社団法人 長唄協会</p> <p style="text-align: right;">公演時間 90 分</p>					
<p><b>出演者</b></p>	<p>出演者          長唄協会所属、普及育成委員会委員を中心に国内外の演奏会で活躍し、歌舞伎の舞台や国立劇場の舞台にも頻りに立つ一流の演奏家を選抜          総勢13名(長唄4名、三味線4名、囃子5名編成)ほか、後見、楽器説明など補助出演者3名以内</p> <p>普及育成委員会委員          東音岩田喜美子(委員長)、杵屋五三丸(副委員長)、望月庸子、望月太津之、藤舎呂裕、今藤政音、芳村伊十治郎、杵屋栄日陽、東音守屋沙弥香、鳳聲晴代、杵屋五三吉都、望月美沙輔、他長唄協会会員</p>					
<p>演目の芸術上の中核となる者(メインキャスト、メインスタッフ、指揮者、芸術監督等)の個人略歴          ※3名程度          ※3行程度/名</p>	<p>監修          東音 岩田喜美子(とうおん いわたきみこ) 1949年、東京都出身。1954年、初舞台。東音田島佳子に師事。東京芸術大学邦楽科卒業。長唄東音会同人。長唄協会普及育成委員会委員長。重要無形文化財保持者(総合認定)。伝統長唄保存会理事。</p> <p>メインキャスト          望月 太津之(もちづき たつゆき) 1967年、東京都出身。1978年、初舞台。望月太津三郎に師事。1990年、東京芸術大学邦楽科卒業。同年、望月流家元より望月太津之の名を許される。長唄協会普及育成委員会委員。</p> <p>芳村 伊十治郎(よしむら いそじろう) 1976年、東京都出身。杵屋栄富、芳村伊十七に師事。長唄芳友会会員。長唄堀留会・長唄むつみ會同人。長唄治葉会主宰。長唄協会普及育成委員会、長唄と教育をデザインする委員会委員。</p>					
<p>本公演          従事予定者数          (1公演あたり)          ※ドライバー等          訪問する業者人数含む</p>	<p>出演者: 16 名          スタッフ: 6 名          合計: 22 名</p>	<p style="text-align: center;"><b>運搬</b></p>	<p>積載量: 2 t          車長: 6.3 m          台数: 2 台</p>			
<p>本公演          会場設営の所要時間          (タイムスケジュール)          の目安</p>	<p>前日仕込み 無</p>		<p>前日仕込み所要時間</p>	<p>時間程度</p>		
	<p>到着</p>	<p>仕込み</p>	<p>上演</p>	<p>内休憩</p>	<p>撤去</p>	<p>退出</p>
	<p>8:30</p>	<p>8:30～12:00</p>	<p>13:00～14:30</p>	<p>10分</p>	<p>14:30～17:00</p>	<p>17:00</p>
<p style="text-align: center;">※本公演時間の目安は、午後、概ね2時限分程度です。</p>						
<p>本公演          実施可能日数目安          ※実施可能時期については、採択決定後に確認します。(大幅な変更は認められません)</p>	<p>6月</p>	<p>7月</p>	<p>8月</p>	<p>9月</p>		
	<p>21日</p>	<p>10日</p>	<p>0日</p>	<p>10日</p>		
	<p>10月</p>	<p>11月</p>	<p>12月</p>	<p>1月</p>		
	<p>22日</p>	<p>18日</p>	<p>18日</p>	<p>16日</p>		
	<p>※平日の実施可能日数目安をご記載ください。</p>			<p>計</p>	<p>115日</p>	

公演に係るビジュアルイメージ  
(舞台の規模や演出がわかる写真)

(図1) 体育館にてより多くの児童・生徒を受け入れられるよう、セッティングをします。  
椅子座布団やその代りになるものを持参して座る例、教室の椅子を持ち込んで座る例など  
実施校の指定に合わせた形で会場造りを行います。



(図2) 舞台イメージ①  
体育館舞台上に山台を組み、その上と前に緋毛氈を敷き、山台の後ろには金屏風を置き、マイクを設置して実際の舞台と同じ設えとします。



(図3) 照明設置  
体育館舞台前と舞台上部に照明装置を設置します。



(図4) 舞台の前面の左右に大型スピーカーを設置し担当者が舞台進行に合わせて照明と音響をコントロールします。



※採択決定後、図面等の提出をお願いします。

(図5) 舞台イメージ②  
本公演第一部の共演では、児童・生徒数名がプロとともに山台や舞台上に並びます。  
児童・生徒は本物の肩衣を着て練習成果を発表します。



(図6) 舞台イメージ③  
本公演第二部のプロ演奏鑑賞時は、唄4名、三味線4名、お囃子5名が舞台上に並びます。  
長唄の一般的な舞台での演者の配置はこの様になります。  
アフタートーク、校歌斉唱はこのままの状態で行います。



著作権、上演権利等の許諾状況	各種上演権、使用権等の許諾手続きの要否	該当なし	該当コンテンツ名	
	該当事項がある場合	権利者名	許諾確認状況	

※A4判3枚以内に収まるように作成してください。

別添	あり		
【公演団体名 一般社団法人長唄協会 】			
ワークショップの ねらい	<p>◎全身体験が可能 我々が提案するワークショップは学校の児童・生徒全員が参加することが可能です。三味線、小鼓、笛は実際の楽器を使用しますが、どの楽器とも特に演奏技術が必要なため、講師が対応できる最大数を用意します。小学校低学年では楽器の扱いが難しいため、唄パートを用意しています。楽器を選択しなかった児童・生徒全員で長唄の発声を学びます。</p> <p>◎実際に楽器に触れてみる 和楽器は、他の楽器に比べて目にする機会が少なく、持つことさえも困難な楽器です。そのような楽器ですが、専門家の指導のもと、正しい構え方・音の出し方を短時間で習得することができます。児童・生徒の興味をより引き出せるよう講師一同力を尽くします。 *楽器体験ができなかった児童・生徒は本公演の際の楽器展示で実際に楽器を見て説明を受けることができます。</p> <p>◎稽古の成果を合奏で発表 長唄は通常指揮者を置かず、横一列に並び、掛け声やお互いの息を汲みながら演奏します。今回は体育館の中心を向き、唄、三味線、小鼓、笛の4グループが輪になることで演奏しているお互いの様子を目で見ながら演奏することができ、その場にいながら鑑賞、応援することができます。</p> <p>◎長唄とは？ 長唄の歴史や背景などを端的に説明します。演奏家が普段どのような心構えで演奏しているか、プロならではのエピソードなどもお話に交えることで、児童・生徒の演奏家に対する興味も引き出します。</p>		
児童・生徒の 参加可能人数	ワークショップ	参加人数目安	150名程度
ワークショップ 実施形態及び内容	<p>みんなで和(輪!)楽器体験～輪になって長唄「京鹿子娘道成寺」～</p> <p>曲目 長唄「京鹿子娘道成寺」作曲初世杵屋弥三郎 より一部抜粋編曲(長唄協会)</p> <p>【前半:グループ別稽古】 唄、三味線、小鼓、笛に分かれ、それぞれの部屋で45分間の稽古。 *三味線は移動が難しい楽器のため、後半の発表会を行う体育館、講堂などを使用し稽古を行う。</p> <p>長唄「京鹿子娘道成寺」より①謡ガカリ ②マリ ③梅とさんさん ④サラシ</p> <p>童謡「ほたるこい」</p> <p>◎唄(楽器を選択しなかった児童・生徒) 京鹿子娘道成寺より、①謡ガカリ と ②梅とさんさん</p> <p>◎三味線20名 京鹿子娘道成寺より、②マリ と ④サラシ ほたるこい</p> <p>◎小鼓15名 京鹿子娘道成寺より ②マリ と ④サラシ</p> <p>◎笛(篠笛・能管)15名 京鹿子娘道成寺より ④サラシ ほたるこい</p> <p>【後半:全体稽古】 全員で集まり合奏練習を行い、その後成果発表を行う。 最後に長唄の説明、本公演でプロと共演する内容の発表と宿題の提示。</p>		
その他ワークショップに 関する特記事項等	<p>*三味線は体育館、唄、小鼓、笛もそれぞれお部屋のご準備をお願いします</p> <p>*後半は体育館で正座をするため座布団やそれに代替えするもののご準備をお願いします(例、防災頭巾、バスタオル、体操用マットなど)</p> <p>*ハンディマイクを1本お借りします</p>		

※A4判3枚以内に収まるように作成してください。

別添	あり
----	----

本事業への応募理由

【公演団体名 一般社団法人長唄協会】

<p>本事業に対する 取り組み姿勢、および 効果的かつ円滑に実施 するための工夫</p>	<p><b>①本事業に対する取り組み姿勢</b></p> <p>長唄協会は大正14年(1925)に設立して以来、演奏会活動を中心に様々な事業に従事して参りました。その中で、小学生に生の邦楽を聞かせたいという思いから昭和43年(1968)より学校巡回演奏を始め、翌年昭和44年(1969)には受け皿としての団体「集団・日本の音」も設立されました。</p> <p>以来、現在までの約60年間で、訪れた学校は延べ約1,700校、参加した演奏家は約2万3,000人余りという規模の運動に発展しました。</p> <p>平成14年(2002)の学習指導要領改定により、和楽器、民族楽器の学習義務化が為され、当協会はこの改定に対応すべく、平成11年(1999)、邦楽教育対策委員会を立ち上げ、平成13年(2001)には社団法人認可以来積極的に推進してきた学校巡回演奏委員会と合体させ、学校教育邦楽普及育成委員会(学邦委)を設置しました。</p> <p>この学邦委は今日の普及育成委員会の前身となるものであり、学校巡回演奏公演を中心に、様々な事業を行ってきました。</p> <p>平成20年(2008)、東京からの文化の創造発信を強化する取り組みとして、東京都と東京都歴史文化財団が芸術文化団体やアートNPO等と協力して「東京文化発信プロジェクト」を開始、芸術文化を通じた子供たちの育成を図る「キッズ事業」の展開が開始されました。</p> <p>長唄協会ではこの趣旨に賛同し、平成21年(2009)度より20余名の会員により「キッズ伝統文化・芸能体験プロジェクト」を組み参画し現在に至っています。</p> <p>以上のように長唄協会として約60年間、学校巡回に力を入れ活動してきました。さらに発展させるべく諸先輩方の尽力の歴史を継承し、将来にわたり長唄のファンを作り続けるということは今後も重要だと位置付けています。伝統楽器に触れ、プロと一緒に発表会をしたという経験を一人でも多くの児童に届けることは、長唄協会の使命の一つです。</p> <p>本事業では令和5年度に8校実施しましたが(令和6年度には2校実施予定)、行く先々で長唄に触れたことのない児童・生徒が大変興味深く、楽しんで体験や鑑賞をしてくださいました。この貴重な活動を今後も続けてきたいと思えます。</p> <p><b>②事業を効果的かつ円滑に実施するための工夫</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・長唄協会理事会において内容を監修し、事前に出演者によるリハーサルを行います。</li> </ul> <p><b>【ワークショップ】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ワークショップにおいては多くの事業にて指導経験の実績がある者が指導にあたり、演奏に関しては、熟練した演奏家による演奏を体感いただけます。</li> <li>・体育館を4ブースに分け内側を向くという配置にすることで、移動の煩雑さを回避できます。また「出演者」として同時に「観客」にもなり、それも体験と位置付けることが可能です。</li> </ul> <p><b>【本公演】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「休憩時間に楽器展示コーナーを設ける」「スライド等で状況補足をする」「簡易な衣装をつける」等の工夫により、聴覚はもとより視覚、触覚からも体感することができます。</li> </ul> <p>全体を通じて適宜質疑応答を設けることにより、児童・生徒からの質問や関心事に対して補足が可能となります。</p>
--	---